

読書会読書グループのための
十冊文庫目録 追録 No.37

(令和三年度)

千葉県立図書館

令和四年三月現在

書名・著者

解

題

海をあげる

上間 陽子 著

「海に土を入れたら、魚たちは死ぬ？」 普天間基地の近くに住み、未成年の少女たちの支援・調査を続けている著者による初エッセイ集。暴力や貧困の中の若い女性たち、爆音の下で沈黙する人々、土砂が投入された辺野古の海。幼い娘のかたわらで沖縄を生きる痛みを、静かに強く綴る。

二〇二二年 本屋大賞ノンフィクション本大賞受賞

令和二年刊 二五一頁 筑摩書房

かか

宇佐見 りん 著

十九歳の浪人生うーちゃんが、独特な方言「かか弁」で語りかける形で物語は始まる。うーちゃんを取り巻く複雑な事情を持つ家族。鍵のかかったSNSの空間が抛り所の彼女。愛憎入り交じった感情を持ちつつも、心を病んだ母を救うため、ある祈りを抱え熊野へ向かう。

第五六回 文藝賞受賞 第三三回 三島由紀夫賞受賞

令和元年刊 一一五頁 河出書房新社

硝子戸のうちそと

半藤 未利子 著

作家の松岡護と夏目漱石の長女筆子の四女であり、昭和史研究家の半藤一利の妻である著者が、夏目一族の思い出、自身の住む家や町、友との関わり、そして、二〇二〇年に亡くなった、夫・半藤一利との別れを綴ったエッセイ集。『味覚春秋』『サンデー毎日』掲載されたもの書籍化。

令和三年刊 二六七頁 講談社

キラキラ共和国

小川 糸 著

祖母の跡を継ぎ、鎌倉で文具店を営む鳩子のもとには、今日も風変わりな代書の依頼が舞い込む。目の見えない少年から母への手紙、亡き夫からの謝罪の手紙、憧れの文豪からの手紙。家族になったQPちゃんともリカゲさん、ご近所のバーバラ婦人や男爵、さらには名前も知らない母親？も登場の『ツバキ文具店』続編。

平成二九年刊 二五一頁 幻冬舎

52ヘルツのクジラたち

町田 そのこ 著

52ヘルツの声で鳴く、世界で一頭だけの孤独なクジラ。その声は周波数が高く、他のクジラには聴こえない。家族に人生を搾取され、恋人にも裏切られたキナコ。心優しく愛情深いけれど、誰にも言えない秘密を抱えたアンさん。親に虐待され、「ムシ」と呼ばれている少年。彼らの52ヘルツの心の叫びが届きますように、祈りと希望の物語。

二〇二二年 本屋大賞受賞

令和二年刊 二六〇頁 中央公論新社

JR上野駅公園口

柳 美里 著

東京オリンピックピックの前年、男は出稼ぎのため、上野駅に降り立った。そして彼は彷徨い続ける。福島県に生まれ、数奇な運命を経てホームレスとなった彼。現在と過去が入り交じりながら進展していく物語に、読者は知らず知らずのうちに引き込まれていく。

二〇二〇年 全米図書賞(翻訳文学部門) 受賞

平成二六年刊 一八七頁 河出書房新社

書名・著者	解題
<p>自転しながら公転する 山本 文緒 著</p>	<p>舞台は茨城県牛久。東京で働いていた都は、更年期障害で苦しむ母の介護のため帰郷。地元のアウトレットモールで働き始める。仕事のトラブル、親の病气、先の見えない恋愛、次々と押し寄せる問題に直面する都。「自転しながら公転する」ぐるぐる迷いながら彼女が選択した未来とは。 第一六回 中央公論文芸賞受賞 令和二年刊 四七八頁 新潮社</p>
<p>自転車泥棒 吳 明益 著</p>	<p>その当時、自転車は高級品だった。数ヶ月稼いでやっと手にできる、それが自転車。二十年前、自転車とともに消えた父。大人になった「ぼく」の元には自転車だけが戻ってきた。激動の時代の台湾を自転車で通して巡る物語。 二〇一八年 国際ブッカー賞候補 平成三〇年刊 四三八頁 文藝春秋</p>
<p>少年と犬 馳 星周 著</p>	<p>東日本大震災から間もない釜石。そこで出会ったその犬は、名を変え、在るところを変えて行く。出会う人に寄り添いながら。その犬はどこへ向かうのか。そして書名の「少年」とは。章ごとに語られる出会いと別れの物語。 第一六三回 直木賞受賞 令和二年刊 三〇八頁 文藝春秋</p>
<p>ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー ブレイディみかこ 著</p>	<p>大切なのは「違いがある」ことを理解すること。イギリスの街ブライトンで暮らす「ぼく」。アイルランド人の父と日本人の母を持つ中学生が考える差別とは？貧富の差とは？多様性とは？「ぼく」が日常で感じる思いを、両親に伝える言葉は真っ直ぐで、思慮深く鋭い。母親である著者が『波』で連載していたものを書籍化。 二〇一九年 本屋大賞ノンフィクション本大賞受賞 平成三一年刊 二五二頁 新潮社</p>
<p>星落ちて、なお 澤田 瞳子 著</p>	<p>「画鬼」と称された絵師、河鍋暁斎の娘とよ。幼き頃から父の手ほどきを受け絵師となるが、多彩な才能の暁斎ほどの腕はなく、同じく絵師となった異母兄周三郎ほどの覇気はない。私立女子美術学校初の女性日本画教授であった彼女だが、絵を描くこと、女性として生きる社会からの制約などにも悩みながら、自分の人生を進んでいく。 第一六五回 直木賞受賞 令和三年刊 三二一頁 文藝春秋</p>
<p>類 朝井 まかて 著</p>	<p>森鷗外の末子、類を主人公にした長編小説。優秀な兄妹妹のなか、勉学、絵画、文学と何をやっても類の才能はなかなか芽がでない。さらに戦争によって財産が失われ妻子を抱えて困窮していく。名門に生まれたからこそ享受した喜びと苦悩、何かを成し遂げたわけではない人生を丁寧に描く。緑の濃淡が鮮やかな装画は類によるもの。 第三四回 柴田錬三郎賞受賞 第七一回 芸術選奨（文学部門）文部科学大臣賞受賞 令和二年刊 四九四頁 集英社</p>

※十冊文庫の「書名目録」は、千葉県立図書館のホームページからご覧いただけます。
(トップページ左側「各種資料リスト」の「十冊文庫」のページに目録あり)